

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 気仙沼市立新月中学校
 種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()
 住所 〒988-0822
宮城県気仙沼市切通100番地
 E-mail : niitsuki-chu@kesennuma.ed.jp
 Website : _____
 児童生徒数：男子 53 名 女子 59 名 合計 112 名
 児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

テーマ	生き方を学ぶ ～過去・現在そして未来へ～
<p>1 本校のESDでめざすもの</p> <p>(1) ESDのねらい</p> <p>「ふるさと教育」「キャリア教育」「志教育」「防災教育」の関連性を図り、3年間の学習を通して、生徒が自分を見つめ、志をもって将来を切り開いていこうとする意志を育成する。また、それらを表現する場を設定することにより、持続可能な社会づくりのための担い手としての資質・能力及び態度を育む。</p> <p>(2) ESDで育てたい資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none">・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え主体的に判断し、創造的に問題を解決する力・仲間と協力して、いろいろな人とコミュニケーションをとる力・自己肯定感を高め、志をもって自分の生き方を考えていく力 <p>2 今年度のESDの概要</p> <p>(1) 実践の概要</p> <p>1学年は、かつて新月地区で盛んだった「たたら製鉄」について学ぶ。地域の方々の協力のもと創立当時から現在まで続いている学習で、実際に大川流域の砂鉄を採集し、手製の製鉄炉で鉄を取り出す作業を通して、生徒たちは先人の知恵を学び、ふるさとのよさに気付く。2学年は、主に「職場体験学習」に向けての職業調査などを通して、働くことの意義や仕事に関する理解を深める。そして、3日間の「職場体験学習」に取り組む。3学年は、修学旅行時の「企業訪問」を実施するとともに、3年間の学習を通して自己の生き方を考え、全員が「立志式」で発表する。</p> <p>また、全校生徒の縦割りでの話し合い活動「サークルタイム」を行う。サークルタイムとは、事前に読んだ新聞記事やコラムについての感想を一人一人が発表し、それについて意見交換を行う活動である。</p> <p>さらに、全校生徒での取組として、防災学習を行う。3年生の生徒が主体となって避難所設営訓練を行い、下級生への防災啓発活動を実践する。</p> <div data-bbox="129 1554 576 1890"></div> <p>1年 たたら製鉄・炉づくり</p> <div data-bbox="576 1554 1023 1890"></div> <p>2年 職場体験</p> <div data-bbox="1023 1554 1469 1890"></div> <p>3年 避難所設営訓練</p>	

(2) 今年度、特に工夫・改善したこと

- ・「サークルタイム」を総合的な学習の時間に位置づけて全校生徒を縦割り班に分け、話し合い活動に取り組みさせた。昨年度は朝日新聞コラム「天声人語」にしぼって書き写しと感想を記入し、「サークルタイム」を行っていたが、今年度は「天声人語」に限らず、新聞記事等から精選して取り組みせたり、事前に資料に関する調査活動を取り入れたりとすることで、より活発な意見交流を図った。また、3学年生徒の司会者の育成を図り、コミュニケーション能力の向上や、主体的に考える力の育成に努めた。
- ・これまでの防災学習に加え、避難所設営訓練を取り入れた。3学年生徒が1学期から事前学習を行い、避難所設営時に必要な対応等を考えさせるなど、主体的に課題を解決することができるように取り組ませた。

3 「国連 ESD 10年」を振り返っての成果と課題

(1) ねらい、及び学習内容（活動プログラム内容）の視点から

成果

- ・各学年のテーマ「過去」「現在」「未来」に沿った体験型の活動を通して生徒が自分自身を見つめ、その後の学校生活にも主体的に取り組むことができた。各学年とも活動のまとめとして個人新聞を制作し、学んだことや感じたことを表現することで、個々の活動を振り返ることができた。
- ・サークルタイムや避難所設営訓練など全校生徒で取り組む活動を通し、特に3年生がリーダーとしての役割を果たそうとする姿や、下級生が上級生をサポートし、ついでいこうとする姿が見られた。

課題

- ・2学年の職場体験学習では、より地元気仙沼に根ざした企業や事業所の開拓が必要と考える。
- ・2学年の職場体験学習と、3学年修学旅行・企業訪問をさらに系統立てて取り組みたい。

(2) 指導計画、及び指導体制、指導方法の視点から

成果

- ・サークルタイムでは、各班に担当教員がついている。教師の介入、支援の在り方などについて、全教員で全体研修会を設けることで共通理解をはかり、生徒同士の話し合い活動がより活発になるよう取り組むことができた。

課題

- ・防災学習に避難所設営訓練を取り入れるのは今年度が初めての試みだったため、色々と手探りな部分が多く、担当教員の負担が大きかった。また、今後は校内だけでなく地域住民や校地内の仮設住宅にお住まいの方などとも協働して取り組んでいきたい。

(3) 育てたい資質・能力に対する生徒の変容、評価の視点から

成果

- ・サークルタイムでは、学年が上がるにしたがって、積極的にコミュニケーションを取ろうとする生徒が増えた。また、自分の意見を押しつけるのではなく、他者の意見を受け入れようとする姿勢が身に付いた。

課題

- ・サークルタイムに苦手意識をもつ生徒もおり、生徒間の意欲や積極性に差が生まれている。
- ・各学年とも様々な取り組みを行っているが、アンケート調査の結果から、自己肯定感が低い生徒もいまだに多いことが分かった。

4 今後のESDの方向性

～主体的・探求的・協働的な学習の充実，アクティブ・ラーニングの推進等～

(1) ねらい，及び学習内容（活動プログラム内容）の視点から

- ・過去→現在→未来の流れで学年毎に段階を踏んで活動に取り組み，立志式を迎えることが伝統になりつつある。今後もこれまでの学年毎のテーマを変えず，生徒にも見通しをもたせ，取り組ませていきたい。

(2) 指導計画，及び指導体制，指導方法の視点から

- ・各学年での活動がベースになっているが，教員間でESD及び各学習計画の共通理解を図っていきたい。
- ・生徒がより主体的に学ぶことができるよう，事前の学習を充実させたい。そのために，余裕と見通しをもった計画を立て，実践していく。

(3) 育てたい資質・能力に対する生徒の変容，評価の視点から

- ・避難所設営訓練を，地域住民や校地内の仮設住宅にお住まいの方などとも協働して取り組むことで，自分と地域を見つめ，地域との関わりや，自分の役割について主体的に考えようとする生徒を育てていきたい。
- ・サークルタイムを通して相手の意見に対し受容・共感的な考え方をするだけでなく，相手の意見を受け入れた上で批判的な考え方もできる生徒を育てていきたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）